

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター楽田 RAKUDA		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 31日		～ 令和7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26世帯	(回答者数) 22世帯
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 4日		～ 令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 18名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の配置数が適切であること。	法令ではお子さん4人に対して職員1人の配置が義務付けられていますが、お子さんの状況、安全面などに考慮し楽田ではお子さん1～2人に対して職員1人の配置を行っています。	今後もこの配置比率を維持できるよう採用活動等を積極的に行っていきたく思っております。
2	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)が作成されている。	お子さんの普段の様子や保護者の方との面談、日々のやりとりの中から、本当のニーズや課題を見つけていけるよう務めています。	今後もお子さん、保護者の方一人ひとりとのコミュニケーションの中からニーズ、課題を見つけ、職員間で共有を行いお子さんたちの成長に繋げていけるよう努めてまいります。
3	母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされている。	参観後等に行われるお茶会は保護者の皆さんが同世代の子を持つ親としての情報交換ができたり、年度初めに卒園児の保護者の方を招き、先輩ママさんの話が聞けたりする場となっています。また、年に一度のクリスマス会では法人内放デイと合同で行うので他世代のお子さんを持つ方と席を囲む場も設けています。	特に児童発達支援は利用されるお子さんはもちろん、保護者の方も初めての方が一定数いると思われまます。不安を抱えたまま利用を始められる方もいると思われるので今後も情報交換や交流の場を積極的に作っていけるよう努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されているか。	紙ベースの「センターだより」では情報発信が来ているが、手作り、手書きに重きをおいていたので、SNSなどのデジタル媒体での情報発信があまり行えていなかったのではないかと思います。	どうしたら保護者の方々にお子さんの楽田での様子が伝わりやすくなるのかを再検討し、デジタル媒体も積極的に活用しながら情報発信が出来るよう努めていきます。
2	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	自事業所での活動、行事などを注視するあまり他の事業所との連携が希薄になってしまったのではないかと思います。	自立支援連携会議の「こども部会」に在籍する事業所などとの交流を図り、どうしたら弊社が地域全体の質の向上に貢献できるのかを模索してまいります。
3	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会があるか。	現在交流先の園長先生と連携をとり定期的に交流は行っていますが、交流可能なお子さんの枠の狭さ(未満児さんなどは難しいなど)や情報がうまく伝わっていないことにより保護者の方からの「どちらともいえない、分からない」という意見の多さに繋がったのではないかと思います。	今後も既存保育園との交流は積極的に行っていきたく思っています。また、未満児さんの交流が可能な園の開拓なども検討してまいります。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援センター楽田 RAKUDA

令和7年 3月 28

公表日 日

利用児童数 26名

回収数 22名

	チェック項目	回答割合				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	86.4%	4.5%	0.0%	9.1%	・十分なスペースがあり、子供たちも動きまわって楽しんで遊んでいるなど感じました。	限られたスペースをなるべく広く使えるように今後も室内の整理整頓を心がけます。外遊びで園庭を使う時は正面と駐車場の門扉を必ず閉めるようにしています。今後ともそれを徹底して安全に遊べるようにします。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%	・常に先生がそばにいて頂けて安心して預けることが出来ています。感謝しております。・思っていたより手厚くみて頂いているので有難く思っています。	法令では4人に対して1人の配置が義務付けられています。お子さんの状況に合わせて楽田では1~2人に対して1人の職員は配置しています。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	81.8%	9.1%	0.0%	9.1%	・年々レイアウトが変化してわかりやすくなっていると思いました。	不要な物は目に入らないようにする、机の配置を考慮する等、お子さんが集中できる環境を作るよう心がけています。引き続きそれぞれのお子さんの特性に配慮した環境づくりに努めています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	90.9%	9.1%	0.0%	0.0%		お子さんの帰宅後に掃除、整理整頓を行い清潔な空間で心地よく翌日を迎えるようにしています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	・とてもよく理解して頂いていると思います。	お子さん一人一人の障害特性や状況を理解した支援を行っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%		公表している支援プログラムに沿った活動を行い支援を行っています。
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・きめ細やかに計画して頂いています。	お子さんの普段の様子や保護者の方との面談、日々のやりとりの中から、本当のニーズや課題を見つけていけるよう努力しています。それらを基に計画を作成しています。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	86.4%	0.0%	0.0%	13.6%		引き続き、児童発達支援ガイドラインの内容に従って計画を作成していきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		連絡帳でその日の活動とねらいをお伝えできるようにしてきました。そのうえで面談の際に、支援の評価をして計画の中にある具体的な支援内容に沿ってどんなことをしてきたかを引き続きお話ししていきます。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	・その都度状態を考えて工夫して下さっています。・毎日色々な体験をさせていただきありがとうございます。	それぞれの個別支援計画に沿って、繰り返し行っていくことと新しく取り組むことの両方を組み合わせながら、活動を工夫していきます。
11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	63.6%	13.6%	0.0%	22.7%		今後も交流先の保育園の園長先生と連携を図ることで定期的を実施することができました。	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		契約時、面談時に説明させて頂いています。	
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	95.5%	0.0%	4.5%	0.0%	計画書の本人の思いの所に想像ですがたくさんかいてあり、感激しました。子供のことを思ってくださいる所がよく伝わってきます。	引き続き書面と面談時にお話ししていきます。	
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	72.7%	18.2%	4.5%	4.5%		年度初めに卒園児の保護者の方を招いた情報交換会を行っています。	
15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%		日々のお子さんたちの状況については、送迎時や連絡帳で伝えあうことは出来てきていると思います。引き続き、半年に一度の面談以外でもなるべくお話できる機会を作っていきます。	
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%		今後も、半年ごとの面談の他にもご希望があればいつでもお話を伺う機会を作ります。	

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%	常にお子さんやご家族の思いに寄り添った支援を心がけています
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	90.9%	4.5%	4.5%	0.0%	参観後等に行われるお茶会は保護者の皆さんで情報交換ができて、先輩ママさんの話が聞けたりする貴重な場となっているので、来年度も行ってきたいと思います。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	保護者の方からのお申し出や相談があった場合は、これからは迅速かつ丁寧に対応できるようにしていきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	いつも連絡帳をたくさん記入してください。お子さんと保護者の方との意思の疎通や情報の伝達がスムーズにいくように心掛け配慮するようにしています
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	81.8%	13.6%	0.0%	4.5%	・ブログやインスタで毎日様子が見えるとうれしいです。・紙の通信を子供と見えています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	86.4%	9.1%	0.0%	4.5%	個人情報ファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めている。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず、情報を共有する場合は同意書の内容に従い必要最小限で行っています。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	86.4%	4.5%	0.0%	9.1%	・もう少し明確にしてほしい。・まだ訓練に参加したことがないのでよくわかっていません。・ヒヤリハットの紙を先日見ました。情報共有してすばらしいなと思いましたし、安心して子供をあずかれています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	90.9%	0.0%	0.0%	9.1%	・まだ訓練に参加したことがないのでよくわかっていません。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	90.9%	4.5%	0.0%	4.5%	月に1回訓練をしています。今年度職員が消防学校での地震体験に参加して、本当に災害が起きた時に役に立つ訓練になっているか、今までの訓練をふり返って考えるようにしてきました。いつ災害が起きてもいように色々な場面を想定しての訓練を行っています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	90.9%	0.0%	0.0%	9.1%	・ちよつとしたケガも報告してもらえて安心。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	・日中の出来事を楽しそうに話してくれます。・まだ意思表示ができず泣いてばかりなのでわかりません。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	・引き続き療育目標のお子さんたちの「心と体の土台を作る」ことができるよう、お子さんたちの好きなこと、得意なことを十分楽しみながら「ゆったり、じっくり」お子さん達と関わっていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	95.5%	0.0%	0.0%	4.5%	・とても満足しています。・家では出来ない経験をたくさんさせて頂き感謝しております。・いつも大変お世話になり、感謝しております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター楽田 RAKUDA				公表日	令和7年 3月 28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守した広さを確保しています。利用者が多いため、収納場所など工夫してなるべく広いスペースがとれるようにしています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令基準4:1に対して1~2:1の職員が配置できるようにしています。食事や排せつなどで1対1での支援が必要な利用者が多い時には、職員配置を調整して安全に支援できるようにしています。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		障害の特性によるクラス分けをし、それぞれがわかりやすい環境づくりを心掛けています。車椅子やバギーで直接教室に入れるようにスロープを作っています。室内は段差なく移動できるようになっています。	屋外への出入り口が障害によっては使用しにくい。ため、どのように改善するのがいいか検討していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		安全に気持ちよく過ごせるよう毎日清掃、整理・整頓に努めています。活動に合わせて机や遊具を配置しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・場所は限られますが、相談室や医務室が空いている場合は利用が可能となります。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		常勤職員を中心に、より働きやすい環境が整えられるよう日常的に現場の声が反映できるようにしています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表の結果をふまえ改善内容を検討しています。	保護者向け評価表の結果、改善内容等を職員全員で共有できるようにしていきます。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎夕、常勤職員打ち合わせがあり、意見集約や情報共有ができる場となっている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は行っていません。	今後必要に応じ検討していきます。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		多くの職員に参加の機会を提供できるように、研修の案内はその都度職員全員が見ることができるようにしています。業務時間外の研修に参加できる職員が少ないため、勤務時間内に参加できる内部研修を行ったり、外部研修も取り入れるようにしています。研修に参加した時には研修報告書により、法人全体の職員が共有できるようにしています。	事前に資料を配布し、短時間でもできるような内部研修を行いパート職員も参加できる機会をなるべく多く持てるようにします。外部研修も積極的に多くの職員が参加できるようにしていきます。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページで公開しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		調査票・面談等で家庭や病院での様子を伺い子どもの状況や保護者のニーズを把握しています。また、そのうえでアセスメントツールで子どもの状態や課題を把握し、計画を作成しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者とクラス担任、担当職員で確認をしています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画にある支援内容を日々の活動の中に取り入れています。常に計画の目標を意識しながら支援できるようにクラスごとに目標を一覧にしたものを作ったり、ケース記録の様式も工夫して作成しています。また保護者にもわかりやすいよう日々の連絡帳でお伝えし、面談時に詳しく説明しています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		個々のケースに応じて、遠城寺式とKIDSのどちらか、または両方を使用しています。医療機関による発達検査の結果も取り入れています。		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインにある項目に従って目標と具体的な支援内容を設定しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各クラスごとに日々の活動プログラムを決めています。全体の行事に向けての活動に関しては常勤職員が原案を作り、それをもとに職員で話し合っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節の行事、クッキング給食、買い物、公園、児童館、図書館など子どもができるだけ主体的に楽しみながらできることや、経験の中が広がることを大事にして、色々な活動プログラムを考えています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況に合わせて、児童発達支援ガイドラインにある本人支援の5領域それぞれの項目において個別、集団両方の活動を想定して計画を作成しています。「人間関係・社会性」の領域に関しては集団活動を主な活動としています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		勤務時間の違いや送迎の都合上全員が集まることは難しいため、前日の常勤職員の打ち合わせで決まった支援の内容や、役割分担がわかる表を作り、勤務前に見て全員が確認できるようにしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		常勤職員が支援終了後に振り返りを行っています。参加できない非常勤職員とは翌日気づいた点、送迎時保護者からの連絡事項など共有するようにしています。全員で情報が共有できるように各クラスごとに連絡ノートを活用しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援内容の記録、個々のケース記録をとり、それをもとに支援の評価・改善につなげています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年ごとにモニタリングを行い、計画の見直しの必要性を判断しています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		ケースに応じ児童発達支援管理責任者、理学療法士、担当職員が参加しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保健師や訪問看護事業所と連携し情報交換をしています。また、嘱託医から健康、感染症などに関するアドバイスを適宜受けています。各市の相談支援専門員とは密に連絡を取るようになっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		連携を進めてきた結果、移行する保育園が市内の場合は支援内容等の情報共有と相互理解は図れるようになってきています。	幼稚園や市外の保育園とも図れるように連携を進めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		小学校、特別支援学校小学部とは日常的に連携できるよう努めています。特別支援学校の先生の保育実習も毎年積極的に受け入れています。移行の際の引継ぎは書面のほか、必要に応じ職員が学校に出向いて行っています。毎年5月に担任の先生の訪問があり、入学前入学後の情報交換をし、相互理解が図れるようになっています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		現在他の児童発達支援センター、事業所とは連携がありません。	他の児童発達支援センター、事業所とどのような形で連携するのがいいのかが検討していきます。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		障害児療育等支援事業で発達障害者支援センターの研修を受けることはあります。また、他にも有料無料問わず資質向上に向け職員を外部研修に送り出しています。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		子ども部会にはセンター長が、市の発達支援連携会議には児童発達支援管理責任者が参加しています。	
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		交流先の保育園の園長先生と連携を図ることで定期的にも実施することができました。		

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎日の送迎の際や連絡帳で子どもの様子をできるだけ多く伝えるようにしています。また、半年ごとの面談のほか必要に応じて面談を行ない共通理解が持てるよう努めています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		ペアレントトレーニングなどの家族支援プログラムは行っていませんが、個々のケースに応じて保護者の対応力が向上できるよう支援をしています。	保護者のみなさんが前向きに子育てできるように求めている支援ができるようにしています。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に、契約書、重要事項説明書を用い丁寧に説明しています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談時に保護者の意向を確認しています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時に支援内容の説明をして保護者の同意を得ています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		半年ごとの面談のほか、保護者からの要望に応じ、その都度相談に応じ助言と支援を行っています。必要な時は担当の相談支援専門員にもつなげています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		新規利用の保護者には親の会の案内をしています。保護者参観の後に保護者同士の情報交換、連携ができるようお茶会を開いています。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談申し入れがあった場合は、すぐに適切に対応できるようにしています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に一回センターだよりを発行して情報発信しています。また年に数回法人で会報を発行しています。また、HPにて年間行事を掲載しております。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報のファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めています。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず情報を提供する場合は、同意書の内容に従い最小限で行っています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもに対してはそれぞれの状況に応じ、できるだけわかりやすい方法で伝えるようにしています。保護者とは連絡帳やメール、電話など家庭状況に応じた方法で意思疎通や情報伝達ができるよう配慮をしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		行事に地域住民を招待することはありませんが、地域の民生・児童委員の見学は積極的に受け入れています。その他地域住民の見学希望にも応じています。保育実習や地域の大学病院の社会医学実習の受け入れも積極的にしています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを策定しています。職員は会議の際に見直しや理解を深めています。保護者には契約時にお知らせしています。	保護者、職員とも周知を徹底するよう努めます。またいろいろな場合を想定した訓練を行っています。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPは策定済みです。年間計画に基づき月に1回訓練を行っています。実施後は担当が中心になり訓練の検証を行っています。	災害時に役に立つ訓練になるために、訓練の検証をしっかりと行うとともに、様々な場面を想定した訓練を実施しています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		調査票、面談で確認しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書に基づき対応しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		器具の点検など安全計画に沿った対応を行っています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎月避難、救出等の訓練を行いその内容を連絡帳にて保護者に伝えています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成、回覧し職員全員で共有しています。また会議で改善案を話し合っています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に職員は虐待のセルフチェックをし、その結果必要があれば児童発達支援管理責任者が面談を行っています。外部・内部の研修に参加の機会を作っています。	

53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	やむを得ない身体拘束については組織的に決定し、保護者に面談で事前に説明し了解の上、計画に記載しています。現在対象のお子さんはいません。	
----	--	---	---	--